

特集 白内障手術と眼内レンズ

白内障とは、カメラのレンズに相当する水晶体が濁る病気です。多くは加齢によるものですが、濁りが進行すると、かすんだりぼやけたりして視力が低下します。一度濁った水晶体は元には戻りません。通常は日常生活に不自由を感じられるようになったら、手術をして濁りを取り除きます。

最も一般的な白内障手術の方法



眼球の表面を3ミリ程度切開します。

濁った水晶体を超音波で砕きながら吸い出します。

水晶体の代わりに人工レンズを挿入します。

※水晶体超音波乳化吸引術および眼内レンズ挿入術のイメージです。手術の方法は、病気の進み具合や目の状態等によって異なります。

眼内レンズについて

眼内レンズは機能面から、単焦点眼内レンズと多焦点眼内レンズに大きく分けられます。

単焦点眼内レンズ【保険診療適用内】

近くか遠くかなど、ある一定の距離にピントが合います。ピントをどこに合わせるかは、生活習慣やご希望等を伺った上で決めていきます。ピントが合わない部分については、眼鏡が必要です。



単焦点レンズの見え方イメージ

多焦点眼内レンズ【保険診療適用外】

近くと遠くの2つの距離にピントが合います。眼鏡を使用する頻度を減らし、その依存度を低くすることを目標としています。しかし、全ての方に効果が保障されているわけではありません。

当院で行う場合は、民間保険の先進医療特約は使用できず、自費での治療となります。



多焦点レンズの見え方イメージ

白内障の手術をしてどれくらい見えるようになるかは、水晶体以外の角膜や眼底の網膜の状態によります。また、手術後の見え方は、どの距離にピントを合わせるかによっても異なります。お仕事の内容や生活習慣等を参考に、主治医としっかり相談した上で決めましょう。

出田眼科病院 医局長 照屋 健一

